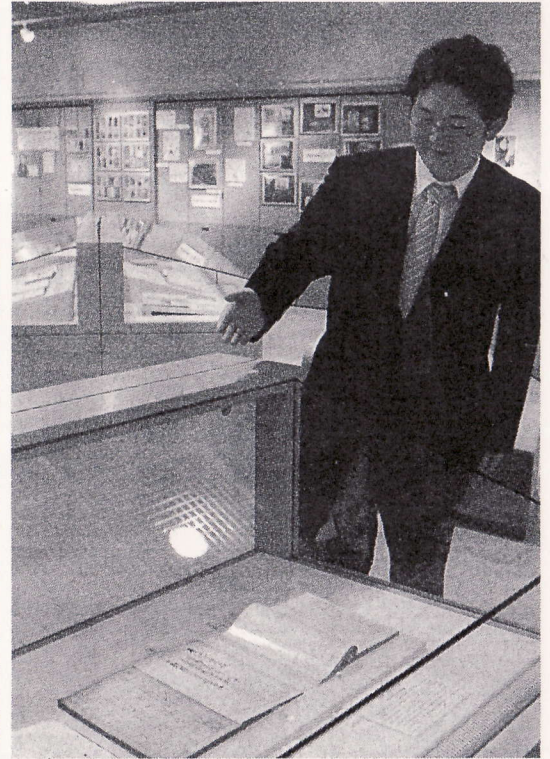


明治文化研究の奇人変人たち



吉野らが収集した多数の書物や絵はがきが並んでいる企画展

大崎市古川福沼の吉野作造記念館で企画展「明治文化研究の奇人変人たち―吉野作造・尾佐竹猛・宮武外骨―」が開かれており、明治文化を独特の視点から研究した偉人の学籍を紹介している。7月28日まで。

関東大震災で明治時代の資料が大量に失われたことを憂慮し結成された、明治文化研究会の吉野作造、大審院（現在の最高裁判所）の裁判官を務めた尾佐竹猛、反骨のジャーナリスト宮武外骨にスポットを当て、3人が集めた資料を中心に99点を展示している。うち19点は東京大附属明治新聞雑誌文庫の提供。

明治維新後、多くの洋書が日本語訳され広く庶民の手に渡るようになったが、誤訳や誇張表現で、西洋の文化や考え方が誤ったかた

ちで日本人に認識されることもあった。

吉野は、日本の混浴文化について記したアメリカのペリー提督やハリス駐日公使の翻訳書に疑問を持ち、自ら原書を訳し研究していたことを、吉野直筆のメモを展示し紹介している。

また、宮武外骨が大日本帝国憲法をやゆして雑誌に掲載し、不敬罪に問われた絵「大日本頓智研法発布式之図」や、収集していた美人画の絵はがきなども紹介。同館職員は「吉野やその仲間たちの堅苦しくない一面を見てもらいたい」と話している。

開館時間は午前9時から午後5時まで。月曜休館。入館料は一般500円、高校生300円、小学生200円。電話0229(23)7880。

吉野記念館 来月28日まで企画展 古川

吉野作造、尾佐竹猛、宮武外骨にスポット